

2023年3月期 第1四半期 決算説明資料

- | | |
|------------|-----------------------|
| 1) 決算概要 | 6) トピックス |
| 2) 決算のポイント | 7) 減価償却費と研究開発費 |
| 3) 国内売上高 | 8) 上期・通期業績見通し |
| 4) 海外売上高 | [参考] 商品群別売上高見通し/為替の影響 |
| 5) 商品群別売上高 | [参考] COVID-19関連需要(概算) |
| [参考] 内訳 | |



日本光電工業株式会社

銘柄コード: 6849

2022年8月3日

1) 決算概要

	2022/3 第1四半期	2023/3 第1四半期	増減率 (%)	(単位:百万円、単位未満切捨て)
売上高	47,182	44,363	△ 6.0	
国内売上高	29,364	28,971	△ 1.3	
海外売上高	17,817	15,391	△ 13.6	← 為替影響除く: △23%
売上総利益 (売上総利益率)	24,565 52.1%	21,811 49.2%	△ 11.2	← 自社品 売上比率: 2022/3 Q1 72.0% → 2023/3 Q1 70.8%
営業利益 (営業利益率)	6,423 13.6%	1,817 4.1%	△ 71.7	← 販管费率: 38.5% → 45.1%
経常利益	6,743	5,481	△ 18.7	← 為替差益: 2.0億円 → 35.5億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,537	3,679	△ 18.9	

平均レート	(2021/6)	(2022/6)
1米ドル	108.9円	124.6円
1ユーロ	131.5円	136.8円

- 売上高は前期比6%減の443億円となりました。
- 国内売上高は、1.3%減の289億円となりました。消耗品・サービス事業の強化に注力するとともに、検査・手術件数の回復や設備投資の再開により、生体計測機器や検体検査装置、ITシステム商談は好調に推移しました。一方で、前年同期に感染症対応のため整備が進んだ生体情報モニタ等の売上が減少しました。
- 海外売上高は、全ての地域で減収となり、13.6%減の153億円、現地通貨ベースでは23%の減少となりました。前年同期に米国での大口商談や感染再拡大地域での需要増加があった生体情報モニタが減収となりました。
- 営業利益は、減収に加えて、売上構成の変化による売上原価率の上昇、人員の増強および営業・サービス活動の正常化に伴う販管費の増加により、71.7%減の18億円となりました。粗利率は、49.2%となりました。
- 経常利益は為替差益の計上により18.7%減の54億円、純利益は18.9%減の36億円となりました。
- 社内計画に対しましては、売上高は、国内、海外ともに上回りましたが、検査・手術件数の回復に伴い、導入品のカテーテル等が好調に推移したことから、粗利率が想定を下回って推移しました。販管費も運賃荷造費等が計画を上回り、営業利益は概ね計画どおりで推移しました。経常利益、純利益は、急激な円安により35億円の為替差益を計上したことから、計画を上回りました。

2) 決算のポイント

売上高：前年同期比 6.0%減

- 国内:検査・手術件数の回復や設備投資の再開により、生体計測機器や検体検査装置、ITシステム商談は好調に推移。前年同期に感染症対応のため整備が進んだ生体情報モニタ等の売上が減少。
- 海外:前年同期に好調だった生体情報モニタの反動もあり、全ての地域で減収。

営業利益：前年同期比 71.7%減

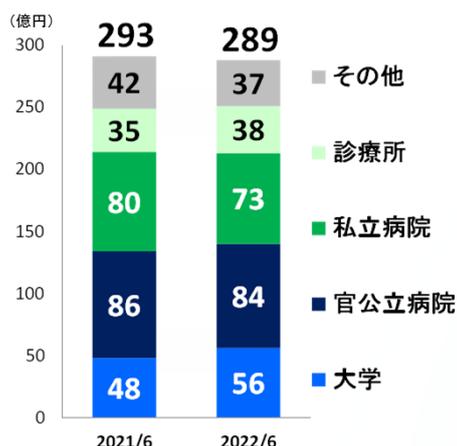
- 減収に加え、売上構成の変化による原価率の上昇、人員の増強および営業・サービス活動の正常化に伴う販管費の増加により、減益。

経常利益：前年同期比 18.7%減

- 為替差益が大幅に増加。

3) 国内売上高

【市場別売上高】



【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

	2022/3 第1四半期	2023/3 第1四半期	増減率 (%)
生体計測機器	6,392	7,897	23.5
生体情報モニタ	10,827	9,203	△ 15.0
治療機器	6,323	5,648	△ 10.7
その他	5,822	6,222	6.9
売上高合計	29,364	28,971	△ 1.3

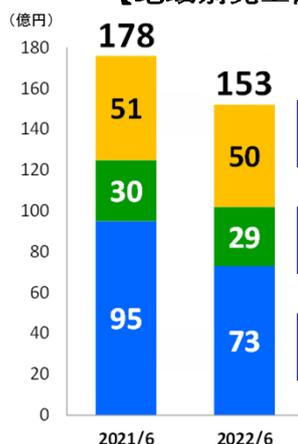
【市場別】 官公立病院、私立病院市場は、生体情報モニタ等の整備もあり大幅増収となった前年同期を下回る。大学病院、診療所市場は、検査・手術件数の回復や設備投資の再開により、好調に推移。

【商品群別】 **生体計測機器:** 脳神経系群、心臓カテーテル検査装置群、診断情報システムが二桁増収。心電計群も好調に推移。
生体情報モニタ: 前年同期に好調だった送信機、ベッドサイドモニタが二桁減収。臨床情報システムは大幅増収。
治療機器: 人工呼吸器が大幅減収。AEDも好調だった前年同期を下回る。除細動器は堅調に推移。
その他: 検体検査装置や医療機器の設置工事・保守サービスが好調に推移。自社品販売の注力により、現地仕入品は減収。

- 国内売上高は、4億円減の289億円となりました。前年同期のコロナ関連需要は、生体情報モニタを中心に15億円程度ありましたが、当第1四半期は1億円程度となり、この影響を除くと一桁半ばの増収だったと見ています。検査・手術件数の回復や設備投資の再開により、生体計測機器や検体検査装置、ITシステム商談が好調に推移しました。
- 市場別では、検査・手術件数の回復や設備投資の再開により、大学病院、診療所市場が好調に推移しました。官公立病院、私立病院市場は減収となりましたが、前年同期のコロナ関連需要の影響を除くと堅調でした。
- 商品別では、生体計測機器が二桁成長となり、その他商品群も好調に推移した一方で、生体情報モニタ、治療機器は、好調だった前年同期を下回りました。
- 生体計測機器では、検査・手術件数の回復、設備投資の再開により、脳神経系群、心臓カテーテル検査装置群、診断情報システムが二桁増収となりました。心電計群も好調に推移しました。
- 生体情報モニタでは、前年同期に好調だった送信機、ベッドサイドモニタが二桁減収となったものの、臨床情報システムは大幅増収となりました。消耗品につきましては、センサ類は堅調に推移したものの、機器の付属品が減収となったことから前年同期並みとなりました。
- 治療機器では、人工呼吸器が大幅減収となったほか、AEDも好調だった前年同期を下回りました。
- その他商品群は、検体検査装置や医療機器の設置工事・保守サービスが好調に推移しました。自社品販売の注力により、現地仕入品は減収となりました。

4) 海外売上高

【地域別売上高】



■ **アジア州他**：前年同期比 $\Delta 2\%$
(為替影響除く： $\Delta 12\%$)

■ **欧州**：前年同期比 $\Delta 4\%$
(為替影響除く： $\Delta 9\%$)

■ **米州**：前年同期比 $\Delta 23\%$
(為替影響除く： $\Delta 33\%$)

【海外売上高比率】

2022/3 第1四半期	2023/3 第1四半期
37.8%	34.7%

【商品群別売上高】

(単位：百万円)

	2022/3 第1四半期	2023/3 第1四半期	増減率 (%)
生体計測機器	2,179	2,133	$\Delta 2.1$
生体情報モニタ	10,075	7,714	$\Delta 23.4$
治療機器	4,035	3,994	$\Delta 1.0$
その他	1,526	1,549	1.5
売上高合計	17,817	15,391	$\Delta 13.6$

為替影響除く： $\Delta 23\%$

【地域別】	米州 ：	米国は、前年同期の生体情報モニタの大口商談の反動により減収。中南米も、前年同期に売上が倍増したブラジル、ペルーを中心に減収。
	欧州 ：	ドイツ、イギリスは好調に推移したものの、フランス、トルコが低調だったことから、減収。
	アジア州他 ：	中国が減収となったことから前年同期を下回る。韓国、インドネシアは好調に推移。
【商品群別】	生体計測機器 ：	脳神経系群は全ての地域で好調に推移するも、心電計群が全ての地域で低調。
	生体情報モニタ ：	米国、中南米が大幅減収となったほか、欧州も低調に推移。アジア州他は前年同期実績を上回る。
	治療機器 ：	除細動器が全ての地域で好調だった前年同期を下回る。AEDは全ての地域で好調。人工呼吸器も欧州、アジア州他で好調。
	その他 ：	血球計数器・試薬が中南米、欧州で好調に推移。

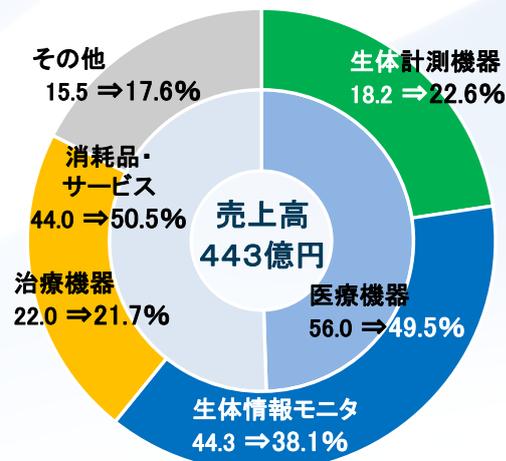
- 海外売上高は25億円減の153億円、現地通貨ベースでは23%の減少となりました。前年同期に米国で生体情報モニタの大口商談が複数あったほか、コロナ関連需要が前年同期の20億円程度から当第1四半期は4億円程度に減少したこともあり、減収となりました。この2つの特殊要因を除くと、円ベースで二桁増収だったと見ています。海外売上高比率は34.7%となりました。
- 米州では、米国、中南米ともに二桁減収となりました。米国は、生体情報モニタは減収となりましたが、AEDが好調に推移し、脳神経系群も前年同期を上回りました。中南米は、前年同期に売上が倍増したブラジル、ペルーを中心に減収となりました。
- 欧州では、ドイツ、イギリスは好調に推移したものの、フランス、トルコが低調だったことから減収となりました。
- アジア州他では、韓国、インドネシアは好調に推移しましたが、中国が減収となったことから前年同期を下回りました。上海光電は3月末から5月末まで事業所を閉鎖していました。ロックダウンが解除された6月以降、業務を再開していますが、サプライチェーンの混乱が継続しています。中国は12月決算であり、上期は現地通貨ベース、円ベースともに二桁減収となる見通しです。
- 商品別では、その他商品群は増収となりましたが、生体情報モニタ、生体計測機器、治療機器が減収となりました。生体計測機器では、脳神経系群は全ての地域で好調に推移したものの、心電計群が全ての地域で低調でした。治療機器は、除細動器が全ての地域で好調だった前年同期を下回りました。AEDは全ての地域で好調に推移したほか、人工呼吸器も欧州、アジア州他で好調でした。血球計数器・試薬は中南米、欧州で好調に推移しました。

5) 商品群別売上高

(単位:百万円)

	2022/3 第1四半期	2023/3 第1四半期	増減率 (%)
生体計測機器	8,571	10,031	17.0
生体情報モニタ	20,903	16,917	△ 19.1
治療機器	10,358	9,642	△ 6.9
その他	7,349	7,771	5.8
売上高合計	47,182	44,363	△ 6.0
(ご参考)			
消耗品・サービス	20,760	22,409	7.9

商品群別売上構成比
(2021/6 ⇒ 2022/6)



- 生体計測機器は前期比17%増の100億円、生体情報モニタは19.1%減の169億円、治療機器は6.9%減の96億円、その他商品群は5.8%増の77億円となりました。
- 消耗品・サービスは、7.9%増の224億円となりました。検査・手術件数の回復に伴い、国内、海外ともに好調に推移しました。特に、国内では、導入品の電極カテーテルとアブレーションカテーテルが二桁成長となったほか、医療機器の設置工事・保守サービスも好調でした。

[参考] 商品群別売上高の内訳

(単位: 億円、単位未満切捨て)

生 体 計 測 機 器	2022/3 第1四半期	2023/3 第1四半期
脳 神 経 系 群	15	21
心 電 計 群	15	14
心臓カテーテル検査装置群	32	41
その他(診断情報システム等)※	22	23

※診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。

そ の 他	2022/3 第1四半期	2023/3 第1四半期
検 体 検 査 装 置	22	25
画 像 診 断 装 置 他 ※	50	52

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

治 療 機 器	2022/3 第1四半期	2023/3 第1四半期
医 科 向 け 除 細 動 器	20	16
A E D	41	42
ペ ー ス メ ー カ ・ I C D	6	5
人 工 呼 吸 器	15	13
そ の 他	18	18

- 商品群別売上高の内訳は、ご覧のとおりです。
脳神経系群、心臓カテーテル検査装置群、検体検査装置を中心に需要の回復が継続しています。

6) トピックス

主な新製品

生体情報モニタリング事業

新生児蘇生モニタ Breath Cue NRM-1300



- 新生児蘇生に特化したパラメータをモニタリング
ECG | SpO₂ | 呼吸流量 | 気道内圧
- LEDの色と点滅で陽圧換気を視覚的にサポート

2022年度
日本、インドネシアで普及に向けた取り組みを開始

3 すべての人に健康と福祉を
新興国を中心に
新生児死亡率を低減

治療機器事業

人工呼吸器 NKV-330



- 当社初の自社製NPPV※人工呼吸器（日本で開発・生産）
- ハイフロー酸素療法
- マスクのフィットリング性を向上

2019年6月

✓ 日本、欧州、新興国で発売

2022年7月

✓ 米国FDA承認取得
✓ 米国で生産開始、2Q発売

※ NPPV (non-invasive positive pressure ventilation) : 非侵襲的陽圧換気。気管内挿管や気管切開を行わない人工呼吸管理。

- 当期の主な新製品をご紹介します。
- 新生児蘇生モニタは、心電図やSpO₂、呼吸流量、気道内圧といった、新生児蘇生に特化したパラメータをモニタリングする当社初の製品です。新生児が仮死状態で出生する割合は約15%と言われており、多くが呼吸不全の状態にあります。新生児蘇生においては、呼吸を補助するために手動での陽圧換気が行われますが、本製品はLEDの色と点滅で陽圧換気を視覚的にサポートします。本製品の普及を通じて、インドネシアなど新興国における新生児蘇生法をサポートし、死亡率や重篤な後遺症の低減を目指します。SDGsにおいても新生児死亡率の低減が目標に掲げられており、サステナビリティ推進の一環として普及に取り組めます。
- 人工呼吸器 NKV-330は、当社初のマスク型人工呼吸器で、新型コロナウイルス感染症の軽症・中等症患者さんの治療にも使われています。日本で開発・生産しており、2019年に日本、欧州、新興国で発売しましたが、この度、米国FDA承認を取得しました。米国の人工呼吸器開発子会社である日本光電オレンジメッドで生産を開始し、米国で発売します。世界最大の医療機器市場である米国での普及、設置拡大を目指します。

7) 減価償却費と研究開発費

(単位:百万円)

	2022/3 第1四半期	2023/3 第1四半期	増減額	2022/3 実績	2023/3 計画
減価償却費	756	825	69	3,422	3,700
研究開発費	1,324	1,412	88	5,711	6,300
			設備投資額	3,022	5,600

●2023/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備

インド 試薬新工場の建設 総投資額:約11億円 < 2023/3:10億円 着工:2022年秋 完成:2023年春
2024/3:1億円 稼働開始:2024年春予定

PLM/MES※システムの導入 設備投資額:約25億円 < 2023/3:10億円 PLM:2024/3下期稼働予定
2024/3~2025/3:15億円 MES:2025/3稼働予定

※PLM(Product Life-cycle Management):製品ライフサイクル管理、MES(Manufacturing Execution System):製造実行システム。

- 減価償却費は8億円、研究開発費は14億円となり、それぞれ計画どおりの進捗です。
- 通期の減価償却費は37億円、研究開発費は63億円、設備投資は56億円で変更ありません。

8) 上期・通期業績見通し

	2022/3 実績		2023/3 予想			
	上期	通期	上期	増減率 (%)	通期	増減率 (%)
売上高	1,023	2,051	880	△ 14.0	1,950	△ 4.9
国内売上高	651	1,363	—	—	1,305	△ 4.3
海外売上高	371	688	—	—	645	△ 6.3
売上総利益 (売上総利益率)	544 53.2%	1,090 53.2%	—	—	982 50.4%	△ 10.0
営業利益 (営業利益率)	174 17.0%	309 15.1%	50 5.7%	△ 71.3	165 8.5%	△ 46.8
経常利益	179	345	50	△ 72.2	165	△ 52.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	122	234	35	△ 71.5	110	△ 53.1
海外売上高比率	36.3%	33.5%			33.1%	

(単位:億円)

← 為替影響除く: △10%

【地域別海外売上高】

(単位:百万円)

	2022/3 実績	2023/3 予想	増減率 (%)
米州	33,436	34,400	2.9
欧州	11,449	10,100	△ 11.8
アジア州他	23,921	20,000	△ 16.4
海外計	68,807	64,500	△ 6.3

※第2四半期以降の前提為替レートは、117円/米ドル、130円/ユーロから変更していません。

- 第1四半期は営業外収益に為替差益を計上しましたが、今後の為替相場は不透明な状況であることから、上期および通期の業績予想に変更はありません。為替レートの前提も、期初から変更していません。
- 国内は、上期の売上高は一桁後半の減収となる見通しです。引き続き、生体計測機器、検体検査装置、ITシステム等の需要は継続すると見ていますが、足元の感染再拡大を受けて、検査・手術件数の動向を注視しています。前年上期に60億円程度あったコロナ関連需要は剥落すると見ています。
- 海外は、上期の売上高は二桁の減収となる見通しです。期初の想定どおり、半導体の需給ひっ迫に伴う製品供給問題が上期中は継続する見込みであることから、全ての地域で減収の見通しです。地域別では、米国の生体情報モニタの出荷について下期への期ずれを見込んでいます。一方で、アジア州他は、中国で上海ロックダウンの影響があるものの、インド、東南アジアを中心に医療機器の需要が堅調に推移していることから、想定を上回る見込みです。
- 第1四半期の実績を踏まえ、上期の見通しにつきましては、売上高は計画を上回る可能性があります。粗利率が50%弱と見ており、営業利益は計画の50億円から大きくぶれないと見ています。製品供給問題、部材価格や光熱費、物流費等の上昇などの不確定要素もあるため、業績予想の修正の必要が生じた場合には速やかに開示します。

[参考] 商品群別売上高見通し/為替の影響

	2022/3 実績	2023/3 予想	構成比(%)	増減率
				(%)
生体計測機器	39,681	41,100	21.1	3.6
生体情報モニタ	84,860	75,900	38.9	△ 10.6
治療機器	43,388	41,000	21.0	△ 5.5
その他	37,198	37,000	19.0	△ 0.5
売上高合計	205,129	195,000	100.0	△ 4.9

(単位:百万円)

(ご参考)

消耗品・サービス	90,576	94,800	48.6	4.7
----------	--------	--------	------	-----

平均レート

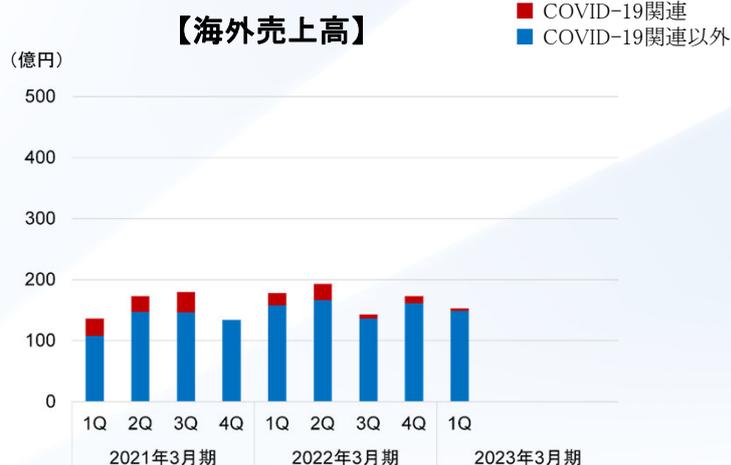
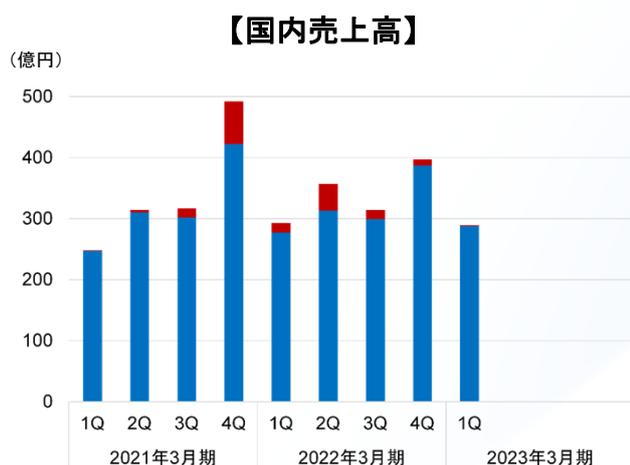
	2022/3 実績	2023/3 予想
1 米 ド ル	111.3円	117円
1 ユ ー 口	130.6円	130円

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
米 ド ル	3.8億円	1.2億円
ユ ー 口	0.6億円	0.2億円

- 通期の商品群別の売上高予想につきましても、変更ございません。

[参考] COVID-19関連需要(概算)



2023/3 第1四半期 COVID-19関連需要	国内		海外	
		対前期増減		対前期増減
生体情報モニタ	1億円程度	△12億円程度	2億円程度	△11億円程度
人工呼吸器	—	△2億円程度	1億円程度	△2億円程度
除細動器	—	—	1億円程度	△3億円程度
合計	1億円程度	△14億円程度	4億円程度	△16億円程度

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- コロナ関連需要につきましては、ご覧のとおりです。
国内、海外ともに需要は一服しており、今後の見通しにも変更はございません。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告を目的としているものではありません。

【担当部署】経営戦略統括部
【連絡先】TEL03-5996-8003